



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル：国会解散決議の採択

12月8日、イスラエル国会は解散決議を採択した。賛成93、反対及び棄権はゼロ。また国会は、選挙日程は2015年3月17日にすることも決定した。

評価

リクードは、すでに来年1月6日に党首選挙を行なうことを決定している。ネタニヤフ党首の対抗馬は、ネタニヤフよりさらに右寄りの考えを持つ党内強硬派になるようだ。そうした状況の中、リクードの一部議員の間では、党内で人気が高かったが11月初めに政界を引退したサアル前内相を復党させて党首候補に推す動きがあると報道されている。サアルは、近く、リクードに復党するかどうかを決めるようである。政界引退後のサアルは、福祉や教育に予算を回す考え方に支持を表明していた。また新党を立ち上げるといわれている元リクード幹部で通信相として電話料金値下げ行なった実績を持つモシェ・カフロンは、優先課題はイスラエルの物価高問題であると発言している。リクードを離党した人気のある有力政治家2人は、考え方が近く親密だされている。彼らが、社会的公正の実現や物価高問題を重要視していることは、リクード党员・支持者の間にも、安全保障だけでなく、中産階級が直面する問題への対応も大切だと考える有権者がいることを示唆している。リクードの選挙名簿の作成の日程はまだ決まっていない。右派政党リクードは、極右政党「ユダヤの家」やイスラエルベイテヌ（イスラエル我が家）、宗教政党との連立を模索する模様である。右派政党は、安全保障問題を掲げて選挙戦を戦うようだ。

中道左派政党の労働党、中道政党のイエーシュ・アティド（未来はある）、ハトゥヌア（運動）などは、選挙で共闘体制を組み「反ネタニヤフ体制」を構築しようとしている。ただ労働党のヘルツォグ党首もイエーシュ・アティドのラピッド党首も、自分が中道勢力をまとめると主張している。「反ネタニヤフ体制」のリーダーは有力な次期首相候補になるだけに党首間の個人的確執が強まるかもしれない。また他の党と統一名簿で選挙戦を戦う場合、各党の選挙名簿で当落ラインぎりぎりの位置にいる議員らが、落選の可能性が強まるとして統一名簿に難色を示す可能性がある。こうした事情もあり「反ネタニヤフ体制」が形成されるか、あるいはどのような形になるかはまだ見えていない。しかし、「反ネタニヤフ体制」ができるかどうかで選挙戦の様子はかなり変わるだろう。中道の諸政党は選挙戦で、中東和平の促進、対米関係の改善、中産階級支援、社会的公正の実現を掲げるようだ。

（中島主席研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799